

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100527		
法人名	株式会社オフィスこおり		
事業所名	グループホーム102	ユニット名	ユニット1
所在地	宮崎市船塚3丁目101		
自己評価作成日	令和2年1月22日	評価結果市町村受理日	令和2年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和2年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は閑静な高級住宅地に位置し周囲には宮崎神宮、県総合文化公園、平和台公園等が在り、四季折々の自然と清浄な空気に恵まれている。前身は産婦人科の医院で多くの新しい命が誕生した縁起の良い建物だと思っている。ここで悠々自適な第2の人生を過ごして頂けるよう、職員一丸となって、安心安全なケアサービスを心がけている。近くには医療機関も多く、車椅子での通院も可能で散歩等も危険が少なく出来る。ご家族にも楽しく面会して頂けるよう、居心地の良い雰囲気作りに努めている。施設の名称通り、102歳の長寿者が2名居られ、皆の目標となっているのも嬉しい。10年間もゆっくりと暮らして頂けている事に励まされ、尚一層精進しなければと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民の訪問や相談があるなど地域との交流に努めている。職員全員が利用者に寄り添い、一人ひとりの出来る事、楽しみ事を見つけ出し、日々支援に取り組んでいる。医療連携体制に力を入れ、医師の往診や訪問診療も多く、適切な医療を受けらるよう体制づくりに取り組んでいる。また、看取りの実績も多く、個々の状態に応じてプランを作成して職員全員でケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所は地域密着型サービスの意義を踏まえ、入居者が地域の中で自分らしく暮らせる為の理念を掲げ、管理者と職員はその理念を共有し、実践につなげている。	理念に掲げた安心安全の実践に日々取り組み、利用者一人ひとりの自分らしい暮らしを支援している。代表、管理者は職員会議で話し合い、理念を職員全員が共通認識できるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所はこの地に41年間医療介護施設を運営してきた為、地域とのつながりは深く、共に人生を過ごしている感じがある。回覧板を通して地域の交流に役立っている。	自治会に加入し、地域の一員として種々の役割を担い、地域との交流に努めている。また、医療介護施設時代から、代表が相談業務を行っており、地域の人がホームに来訪し、見学や相談するなど地域交流に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の専門施設に転換してからは年々増加している認知症に対する相談業務、受け入れ態勢の充実とアピールを通して、地域の皆様の不安解消に貢献できている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、1時間程度、民生委員や自治会長、地域包括支援センター、時には市の介護保険課の方々とご家族数名を迎え、管理者・経営者・ケアマネジャー・事務員が意見交換し、サービスの向上に活かしている。	市職員、民生委員、家族等が参加して、ホームの状況や活動を報告し、委員から地域の行事等の情報を得てサービスの向上に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	気がかりなこと等があると遠慮なく市の担当者に相談することになっている。安心するまで質問して解決すると更に前進できるのでありがたく感謝している。	日頃から気軽に制度等の疑問点を質問し、運営、会計の問題点を相談するなど協力関係の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の介護においては大変努力を要する事柄であっても真剣に寄り添い、工夫を重ねて絶対に守るように肝に命じている。運営推進会議の後で身体拘束禁止委員会議も行っている。	勉強会を実施して身体拘束の弊害について、職員全員で共通認識を持つように努めている。身体拘束禁止委員会議で、拘束しないケアのための工夫や事前の対応を話し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が余裕をもってケアすれば防げる問題だと考えるので、職員のストレスを極力軽減するよう努めている。自分がされたくないことは絶対しないようにとお願いしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は成年後見制度や権利擁護について勉強会や研修で学び、家族の支援が得られない入所者については市や地域包括支援センターと連携を図って成年後見制度を利用している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所が決まる前の見学段階から十分な説明を行い、重要事項説明書を示しながら疑問や不安を尋ねて完全に納得された上で契約締結をしている。改定等の際も周知徹底を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族等の意見や要望は常に担当スタッフを受け止め、即答えられるよう常日頃から知識を共有している。即答できかねる件については専門担当者が説明して納得を得ており、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に家族が参加したり、来訪時に要望等を言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。意見等には、職員で話し合い改善するよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者は24時間体制で職員の意見や提案を受け止め、真剣に協議して運営に反映させている。	現在代表者と管理者が兼務であるが、代表者と職員が個々に話せる関係づくりに努めている。各々のユニット、夜勤勤務者にリーダー制を設け、より意見やアイデアを出しやすい体制づくりに取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場での職員の努力や実績、勤務状況の把握に努め、給与や労働時間は雇用契約を守らざるを得ないので、処遇改善加算金の分配で加減し、各自が向上心も持てるよう配慮している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	この1年間で1階と2階にフロアリーダーを選任し、夜勤にもリーダーを任命してシフト作り等を分担してもらう事にした。もちろん、手当も付けてうまく行っている。法人内外の研修の呼びかけやトレーニングにも役立っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回行われるグループホーム連絡協議会で同業者と交流できており、最近では新規オープン予定の病院経営者2か所から実地指導を頼まれて数日間、運営状況を勉強してもらった。今後も相互に向上を計りたい。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談の段階で必ず本人に来て頂き、また入院中等で来れない時は当方から出向いて本人の不安や要望を受け止め、信頼関係と安心を確保するよう努めている。気に入ってもらった上で入所を決めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係なくしては成り立たない業種なので、極力努めている。家族が面会に通うのを楽しく思えるように、またレクリエーション等にも嬉しく参加して頂けるよう色々な要望や不安に気持ちよく対応するよう心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の初期段階で本人と家族が先ず必要としている事を支援(認知症の診断書や介護認定の確認、また住所の移動等)するのは当然で、主治医や病氣、投薬等大切な事から順次解決している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を病人や被介護者にしてしまう施設ではないので、共に楽しく暮らすホームであることを認識し、残存能力や好きな事を活かせるよう、お客様ではなく参加型の生活づくりを念頭に置いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も本人を支える立場である事を理解して頂き、本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支援していく関係を築こうと改めて認識している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも頼んで本人の馴染みの人に面会に来てもらったり、手紙を送って頂いたり、時には行きたい所へ連れて行ったりしている。好きな人からの手紙は本人の喜びになっている。	友人が定期的に訪問ランチと一緒に出かける利用者や、家族の協力で馴染みの美容室に通うなど、その関係が継続出来るよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場なので、利用者同士が家族のように馴染んだ関係で暮らせるよう配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、退院が出来なくなった時等に契約終了となる場合があるが、本人を見舞ったり、また亡くなられても葬儀にかけつけたりして本人・家族とのご縁を大切にしている。求めがあれば相談や支援にも応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新年にあたり「今年目標」を聞いたり、書いていただいたりして思いを把握しようと工夫している。表現が難しい方は、本人に寄り添い話し合っていくことを大事にしている。	日々の暮らしに寄り添い、話を聞くことで一人ひとりの思いの把握に努めている。家族からの情報を得て、本人の思いを支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との面談の中でこれまでの暮らしや大事にしていること、好きなことや嫌いなことを把握したり、日常的な会話の中から把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを利用し、一日の過ごし方等が把握しやすいように工夫している。できることできないことについても共有できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や職員会議・家族への電話・面会時に評価をし、介護計画について見直し検討している。	担当スタッフから情報を得て、職員会議で問題点を把握し計画作成担当者がモニタリングを行い、分析して介護計画の作成、見直しを行っている。サービス担当者会議で本人、家族の意見や要望を聞き反映させるよう取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式のシートに日々の記録を記入し、気づきやケアの内容が検討できるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅マッサージの利用、訪問歯科診療、口腔ケア指導を依頼したり一人ひとりのニーズに応える努力をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ、自治会や地域交流センターとの連携を深めたり、回覧板で情報を得るようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望でかかりつけ医は、継続している。受診が必要になった場合は家族と相談の上受診介助を含め対応している。	複数のかかりつけ医が定期的に往診し、適切な医療を受ける体制づくりに取り組んでいる。家族の付き添いでの通院時は、ホームの状況を文書で知らせ、帰宅後家族より報告を受けるなどして、受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に介護職と看護職の連携は取れており、異常の早期発見に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には「医療と介護の連携シート」「基本情報」を記入し、入院先へ情報を提供している。退院時には「退院前カンファレンス」の開催をお願いしている。顔の見える連携づくりを心掛けている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期に向けた方針を説明している。看取りについては、家族・主治医・施設職員と話し合いをして看取りの方針を立ててケアをしている。また、職員教育にも力を入れている。	利用開始時に重度化、看取りについて文書と口頭で説明している。状況に応じて看取りについての確認書を徴し、医師や家族と話し合い、状態に応じたプランを作成の上実施している。看取りの実績も多い。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、冷静に迅速に対応できる力をつける努力をしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回訓練を行い実践的な取組を行っている。運営推進会議等で地域住民の方にも協力を募り、体制を整えるための努力をしている。	防火訓練を年2回実施している。防火扉も設置されており、近年近隣の火災で、避難した実態もあり、消防署等の連携はある。構造上、2階ユニット利用者の避難については危惧される状況もある。	建物の構造上からも職員のみでの対応では限界がある。地域へ協力依頼の働きかけや夜間想定避難訓練に取り組まれる事を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者の尊厳とプライバシーを守るために親しき仲にも礼儀ある言動を心掛けている。また、個人情報保護法の周知を肝に命じ、無用なおしゃべりを慎み、誠意ある対応を促している。		一人ひとりの人格を大事にした丁寧な言葉で支援している。歯磨きの促しやトイレの誘導など、個々に小声で声をかけ、顔を見ながらゆっくりと話すなど、対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も本人の意思や希望を尊重し、押しつけない態度にならないように、また本人が遠慮なく要望を表出できる雰囲気や接するように職員間でも気を付け合っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでも利用者ファーストで職員側の決まり事や都合を優先しないように、努めている。一人ひとりのペースを極力大切にしながら1日を気分よく平穩に過ごして頂けるように頑張っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週に2~3回の入浴と2か月毎のヘアカット等で念入りに皮膚や毛髪の手入れを行い身だしなみには気を付けている。時には軽いメイク等をして気分を上げて貰いたいと考えている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は健康と楽しみの源泉なので管理栄養士のメニューに沿って新鮮な食材で手作りを実行している。介護度の高い高齢な人は手伝いは無理だが、できる範囲で一緒に準備している。おやつタイムを楽しみにされている。		食事は厨房で調理して提供している。テーブル拭きなど利用者の出来る事を一緒に行っている。また、食事を楽しむことの支援として、利用者の状態に合わせ食材を細かくしたり、匙を使用するなど自力で食事ができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の栄養と水分確保には大変気を付けている。時間をかけてよく噛んで安全に咀嚼できるよう、十分な注意を払って寄り添い支援している。主治医の指導で経管栄養の人も居る。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアも重要な事で誤嚥を起こさないよう清潔保持に気を配っている。時々、歯科医師の指導も受けて義歯の調節や手入れも行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ自立支援をしているが各自の排泄パターンを職員間で共有し、失敗を減らす工夫に余念がない。本人も自力で行いたがるので様子を見守り、エスコートしてうまくできた時は一緒に喜んでいる。		排せつチェック表を活用し、一人ひとりの状況に応じた声かけ等で、自立の排せつを支援している。夜間は、必要な利用者は部屋にポータブルトイレを置き、いつでもトイレでの排せつが出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境を良くするメニューを工夫し、腹部のマッサージ等で便秘対策は考慮しているが、入所前から便秘薬に頼っている人も多く、服薬後何時間で排便に至るかを見極めて対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しく行える雰囲気づくりをして自分のできる部分はして頂き、会話をしながら職員とのコミュニケーションタイムになっている。中には入浴嫌いの人もあるが色々工夫して促している。入浴すると気分はずっきりされて嬉しそうだ。		基本的には週2回であるが、毎日入浴出来る体制はあり、本人の希望に沿い柔軟に対応している。職員は1対1で支援し、ゆっくりと寛いで入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日1回の昼寝は健康上大変良いとの医師のすすめで1時間程度行っている。夜も寝る前に200cc位の白湯を飲むと安眠できるとの医師の提言で実行している。これ位では夜間の排尿増加には影響ないとのこと。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の処方箋に沿って服薬管理を行っているが、注意深く支援しないと危険に直結するので真剣に取り組んでいる。常に主治医や薬剤師と連携を図っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日行うレクリエーションで各自の特技や好きな事を聞き出してやって貰っている。また、月に1度の皆で一緒に行うレクリエーションでは希望を募って外出したり、外部のボランティアに来て頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時期を見て気候の良い日は散歩に行ったり新年は初詣の後ショッピングモールで買い物や外食を楽しんだり春はお花見秋は紅葉狩り温泉やバス旅行サーカス等にも出掛けている。ご家族も参加され一同のふれ合いを心掛けている。		福祉バスを利用して初詣やショッピングモールに出かけている。家族の協力を得て墓参りや買い物に出かけるなど、外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりのおこづかい帳を作り外出時の買い物に使い、レシートを張り付けて記録する支援を行っている。また、外食時も各自好きな料理を注文して各自で支払う行為を楽しんでもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時は自由にできるよう支援したり、手紙もよく来るので楽しみにされている。読んで聞かせて下さったり嬉しそうにされている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住環境は静かなので不快な音もなくテレビも好みに応じて刺激の少ない音量にし、ライトもLEDの部分と柔らかい照明とを使い分け危険のない装飾品を心掛け廊下にもエアコンを2か所つけてメンテナンスにも注意を払っている。	採光や温度、換気など細やかに気配りして心地よく過ごせるよう支援している。状況に合わせて、利用者に確認した上でテレビの電源を入れるなど利用者の気持ちに沿った支援に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で食事やレクリエーションをした後は個室で自分好みの時を過ごし、淋しくなったらまた共用の場に移って仲間と触れ合って過ごすペースができています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が馴れ親しんだ手放せないお気に入りの物を持ち込まれており、またご家族も面会の都度工夫されて居心地の良い居室をつくり上げておられる。永く暮らす内にすっかり好みの部屋となっている。	家族の写真や花を飾るなど、一人ひとりの好みの部屋になるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物もやがては自分の家と化していくので充分馴染まれて自由に使いこなして頂いている。危険な事がないように床につまずく物は置かず、清潔を心掛け空気の清浄にも努めている。			